

## 中期目標・中期計画・平成25年度計画

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画
<b>I 大学の目標</b>		
<p>「情報化社会の新しい大学と学問の創造」という建学の理念に基づき平成22年度に、本学が果たすべき機能として1. 情報を核とする高度な専門職業人養成機能、2. 国際性と豊かな人間性を育む教養教育機能、3. 情報に関わる通信教育の拠点機能、4. 地域貢献・産学連携機能を明確化するとともに、「使命・目標」、大学としての「教育目的」について見直し、必要な改定を行った。これらの周知を図るとともに、今後も本学に対する社会からの要請を真摯に受け止め、必要な場合には更なる見直しを進める。また、各学部・学科等、大学院研究科、通信教育部においても、共通教育、専門教育の双方について、教育目的等を明確化し、その周知に努める。</p> <p>中期目標の期間は、平成23年4月1日から平成28年3月31日とする。</p>		
<p><b>(1) 理念、使命、目的、果たすべき機能の明確化</b></p> <p>1 本学の「使命・目標」、「教育目的」等が世界的に大きく変動しつつある社会からの要請に応えるものとなっているかをたえず検討し、必要な場合には見直しを進める。</p> <p>2 各学部・学科・通信教育部の共通教育、専門教育及び大学院研究科の教育目的等を明確にし、必要に応じて見直しを行う。</p>	<p>1-1 外部有識者、同窓生、保護者、企業等からの聞き取り調査等により、本学に求められていることを調査・検討する。</p> <p>2-1 大学全体の理念、使命・目標、教育目的との整合性を踏まえ、またそれぞれに対する社会からの要請を反映して、必要に応じて、教育目的の見直しを行う。</p>	<p>1-1-1 これまでの調査結果等を踏まえ、外部有識者、同窓生、保護者、企業等からの意見等を分析し、必要があれば見直しを進める。</p> <p>【経営情報学部】</p> <p>2-1-1 本学部の教育目的と社会からの要請とに乖離がないかどうかのチェックを実施する。</p> <p>【先端経営学科】</p> <p>2-1-1 本学科の教育目的と社会からの要請とに乖離がないかどうかのチェックを、継続して実施する。ポリシーとコンテンツとの間に乖離が生じた場合には、速やかに対策を講じる。</p> <p>【システム情報学科】</p> <p>2-1-1 新コースの平成25年度開講科目を計画通り実施するとともに、平成26年度以降の具体的な準備を行う。</p> <p>【医療情報学科】</p> <p>2-1-1 新設医療情報学部に用意された新カリキュラム構成にて教育を実施するとともに、改良点や問題点の抽出を行う。</p> <p>【情報メディア学部・情報メディア学科】</p> <p>2-1-1 学部・学科の教育目的と社会からの要請とに乖離がないかどうかのチェックを継続する。</p> <p>【研究科】</p> <p>2-1-1 引き続き教育目的の見直しを必要性を含めて検討する。</p> <p>【通信教育部】</p> <p>2-1-1 通信教育部の教育目的等を明確にし、必要に応じて見直しを行う予定である。</p>
<p><b>(2) 理念、使命、目的、果たすべき機能の周知</b></p> <p>学生や教職員への周知徹底を図るとともに、広く学外にも周知する。</p>	<p>大学案内、学内報「ななかまど」、学生便覧、パンフレット等の各種刊行物、ホームページ、各種行事における理事長や学長の挨拶等、多様な機会を通して周知を図る。</p>	<p>平成24年度に把握した学生及び教員への周知度を分析し、必要な改善を図る。</p>
<b>II 教育に関する目標</b>		
<b>II-1 学士課程教育・大学院教育に関する目標</b>		
<b>(1) 教育研究組織に関する目標</b>		
◎学士課程		

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画
<p>1 教授会、教務委員会等の各種委員会及び共通教育協議会が適切に整備され、機能する。</p> <p>2 適正な学部、学科、専攻、コースがあり、それぞれの教育研究の目的の実現に相応しい構成になっている。</p> <p>3 CANVAS、POLITEを中心としたICTが、学生の教育・学習に活用できるように整備され、十分に機能している。</p> <p>◎大学院 大学院教育に対する社会の期待に応えるため、多様な修了プログラム・カリキュラム等を大学院の拡充を視野に入れて検討し、質の高い教育を追求する。</p>	<p>1-1 定期的の問題点の洗い出しを行い、必要があれば改善策を検討し、改善を図る。</p> <p>2-1 適正な学部、学科、専攻、コースの構成と定員がそれぞれの教育研究の目的の実現に相応しいかどうかを定期的に確認する。</p> <p>3-1 CANVAS、POLITEをはじめとした教育・学習システムの機能を拡充するとともに、より幅広い利用を促進するような支援活動や啓蒙活動を続ける。</p> <p>必要に応じて大学院の拡充等の見直しを検討する。</p>	<p>1-1-1 平成24年度に実施した各種委員会活動状況調査の結果と適切性の評価を基に、必要があれば見直しを進める。</p> <p>3-1-1 利用者の要望等に応じて、随時、システムの再検討や改修を行う。</p> <p>引き続き、学部の改変に合わせた分野やプログラムの構成について検討を進める。</p>
<p><b>(2) 教育の成果に関する目標</b></p> <p>◎共通教育 学士に相応しい基礎学力と教養を身に付けさせる。</p> <p>◎専門教育 卒業時に修得すべき内容を明らかにして、学士の質を保証する。</p> <p>◎大学院 大学院教育に対する社会の多様な要請に相応しい学位を授与する。</p>	<p>基礎学力、論理的思考力、国際感覚、情報リテラシー、将来のキャリアを準備する能力などを身に付けさせるため、共通教育科目の充実を図る。</p> <p>卒業試験や卒業時に修得すべき内容などの検討により学士の質を保証するための具体策を設定する。</p> <p>修士論文と特定課題研究の審査基準を明確化する。</p>	<p>平成25年度から開始される新科目(教養特別講義)の成果を確認する。</p> <p>【経営情報学部】 卒業試験や卒業時まで修得すべき内容などの見直しを継続する。</p> <p>【先端経営学科】 平成24年度に実現した「卒業論文作成講座」、「卒業論文中間発表会」を継続して実施する。</p> <p>【システム情報学科】 卒業試験や卒業時まで修得すべき内容などの見直しを継続する。</p> <p>【医療情報学科】 新設医療情報学部に適した新しい医療関連資格の追求と、取得の可能の検討を続ける。卒業単位数及び必修・選択科目等の区分については、本年度用に用意された計画を実施する。</p> <p>【情報メディア学部・情報メディア学科】 シラバスやコンピテンシーの見直しを適宜実施する。</p> <p>特定課題研究の内容、評価方法等について各分野、プログラムで検討し決定する。</p>
<p><b>(3) 教育の内容・方法等に関する目標</b></p> <p>◎共通教育</p> <p>1 社会人基礎力としての教養を磨くための共通教育を実施するにあたって、科目特性に適合した効果的なクラス展開や指導方法を確立する。</p>	<p>1-1 関連する科目間及び各科目内での担当者の密接な連携をはかる。</p> <p>1-2 eラーニング教育、学生参加・発表型科目を充実させる。</p> <p>1-3 クラス規模の適正化について検討する。</p>	<p>1-1-1 引き続き「ビギナーズセミナーⅠ」「ビギナーズセミナーⅡ」と「日本語表現Ⅰ」「日本語表現Ⅱ」の連携を図る。</p> <p>1-2-1 フルeラーニング教育としての必修科目「キャリアデザインⅢ」を円滑に実行し、成果を確認する。</p> <p>1-3-1 必修科目、外国語科目におけるクラス規模の適正化を図る。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画
<p>2 国際性と豊かな人間性を育む教養教育を軸として、専門教育との整合性やバランスに配慮したカリキュラム体系を構築する。</p> <p>◎専門教育</p> <p>1 カリキュラムポリシーを実現するため、それぞれの科目特性に適合した形態、及び学習指導方法等を充実する。</p> <p>2 4年間を通して効果的なカリキュラム体系を作成し、理解力、応用力、問題解決力を高める。</p> <p>◎大学院</p> <p>1 大学院に対する新しい学問的・社会的要請に相応しい、体系的な教育方法を柔軟かつ適切に構築する。</p> <p>2 多様化する大学院志願者の能力を多面的に育成する。</p>	<p>2-1 カリキュラムの目的が達成されているかどうかを検討し、必要に応じて調整、改正を行う。</p> <p>1-1 eラーニング教育、学生体験型、学生参加型科目を充実させる。</p> <p>1-2 チームティーチング制度を導入する。</p> <p>1-3 PBL(Project Based Learning)、Active Learningを採用可能な科目についてその実現を推進する。</p> <p>1-4 時間割配置を見直し、3学期制、授業時間の適正化などを検討する。</p> <p>1-5 ゼミの配属決定時期を再検討し、各ゼミへの配属人数の最適化を目指す。</p> <p>1-6 資格やスキルアップに関係する専門科目を充実させる。</p> <p>2-1 各学科の特徴に応じて、4年間を通したカリキュラムの検討作業を継続する。</p> <p>1-1 eラーニング教育を充実させ、チームティーチング制度やPBLを採用可能な科目についてその実現を推進する。</p> <p>2-1 社会が必要とする高度技術の修得や職業経験者のスキルアップのためのカリキュラムを整備する。</p> <p>2-2 大学院教育の弾力化・多様化・活性化を図るために指導教員の構成を検討する。</p> <p>2-3 留学生に対する教育カリキュラムを整備・充実する。</p>	<p>2-1-1 学生のコンピテンシー達成度のデータを蓄積し、検証方法の検討に着手する。</p> <p>1-1-1 医療情報学科の科目でeラーニング教材の開発に着手する。</p> <p>1-1-2 平成25年度も引き続き継続実施する。</p> <p>1-2-1 平成25年度も引き続き継続実施する。</p> <p>1-3-1 先端経営学科では、科目「ビジネスプラン」でPBL型授業を実施する。システム情報学科では、平成24年度の実施経験を反映しながら、引き続き「プロジェクトトライアル」をPBL授業として実施する。</p> <p>1-4-1 時間配置の妥当性を確認し、必要があれば見直しを検討する。</p> <p>1-4-2 主体的な学びに必要な学修環境を検討する中で、本学でのあるべき姿の原案を作成する。</p> <p>1-5-1 情報メディア学科では、試行の結果を受け、必要があれば更なる改善を検討する。</p> <p>2-1-1 引き続きデータの蓄積を継続しつつ、検証方法の検討に着手する。</p> <p>1-1-1 本学における必要性を含めて検討を進める。</p> <p>2-1-1 本学に入学を希望する職業経験者像を明らかにし、必要な教育内容を検討する。</p> <p>2-2-1 複数指導教による指導体制の構築について引き続き検討する。</p> <p>2-3-1 留学生に特別にどのような教育が必要かについて、引き続き検討する。</p>
<p><b>(4) 学生の受入れに関する目標</b></p> <p>◎学士課程</p> <p>1 一般・センター・AO・推薦の各入試の位置づけを明確にして、各学科のアドミッションポリシーに適う人材を社会に広く募集し、確保する仕組みを構築する。</p>	<p>1-1 必要に応じて、毎年度アドミッションポリシーの見直しを行う。</p>	<p>【経営情報学部】</p> <p>1-1-1 必要に応じて、アドミッションポリシーの見直しを行う。</p> <p>【先端経営学科】</p> <p>1-1-1 必要に応じて、アドミッションポリシーの見直しを引き続き行う。ポリシーとコースとの間に乖離が生じた場合には、速やかに対策を講じる。</p> <p>【システム情報学科】</p> <p>1-1-1 必要に応じて、アドミッションポリシーの見直しを行う。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画
<p>2 AO・推薦での入学予定者の入学前教育を充実する。</p> <p>◎大学院 既定のアドミッションポリシーを一層明確にするとともに、学生及び職業経験者の意欲・能力・適性などを多面的に評価する多様な入学選抜を実施する。</p>	<p>1-2オープンキャンパス、学内外での模擬授業、公開講座、高大連携などで、本学のアドミッションポリシーを社会に周知するための機会を、広く提供する。</p> <p>2-1 AO・推薦での入学予定者の入学前教育について効果的なあり方を確立する。</p> <p>学習能力及び学習意欲を備えた職業経験者・学生・留学生を積極的に受け入れる選抜方法を整備する。</p>	<p>【医療情報学科】 1-1-1 本年度からの新規アドミッションポリシーに適う人材募集を、新設医療情報学科の学年次進行に伴って押し進める。</p> <p>【情報メディア学部・情報メディア学科】 1-1-1 必要に応じて、アドミッションポリシーの見直しを行う。</p> <p>【広報連絡協議会】 1-2-1 医療情報学部開設など改組改編に基づく平成25年度からの新体制を考慮に入れて、オープンキャンパス・学内外での模擬授業・高大連携の取組を推進する。</p> <p>【医療情報学科】 1-1-2 公開講座、高大連携については、新設医療情報学科においても従来通り実施する。なお、広報を目的として地方におけるオープンキャンパスの在り方については、さらに検討を続ける。</p> <p>2-1-1 入学前教育の実施状況を踏まえ、効果的な方法、体制等を検討し、実施する。</p> <p>アドミッションポリシーの見直しを実施し、引き続き、本学通学生および通信教育部からの進学者増の方策を検討し、実施する。</p>
<p><b>(5) 教育の実施体制に関する目標</b></p> <p>◎学士課程</p> <p>1 多様化に対応して少人数対応の科目を配置するなど、個々の学生に目が行きとどいた教育を実施するための全学的な取り組みを強化する。</p> <p>2 教員の年齢構成の適正化、教員の活性化・スキルアップを図る。</p>	<p>1-1 各教員及び教員相互の自己点検を強化するために、学科長、各種委員会、FD組織など教職員の連携を強化する。</p> <p>2-1 教員の年齢構成の偏り解消に努め、教員の各学科への適正配置、複数の教員が担当可能な専門科目でのローテーションなど柔軟な運営を計画する。</p>	<p>【先端経営学科】 1-1-1 平成24年度に構築した1年生前期から卒業までの少人数教育体制を運用していく。</p> <p>【先端経営学科】 1-1-2 平成24年度に構築した主要必修科目の完全セメスター制度を運用していく。</p> <p>【システム情報学科】 1-1-1 複数の科目を複数の教員で担当するという体制における教員の担当科目ローテーションの検討を継続する。</p> <p>【医療情報学科】 1-1-1 学科内の自己点検評価及び相互点検評価は従来通り実施する。資格取得対策を対象として、少人数構成による対策講座などの検討を行う。</p> <p>【情報メディア学科】 1-1-1 多様化に対応した講義を実施できる体制を検討する。</p> <p>【先端経営学科】 2-1-1 年齢構成も考慮した教員の採用を行い、組織の活性化を図る。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画
<p>3 ICTの利活用と教育方法の改善によるFD及び教育イノベーションを推進する。</p>	<p>2-2 共通教育科目間の授業内容や教育効果に関する情報を共有し、基礎科目の少人数教育、教養科目におけるクラス規模の適正化を図る。</p> <p>3-1 教育GPで開発したFD支援システムCANVASを活用し、授業改善のためのPDCAサイクルの定着化を図る。</p> <p>3-2 授業改善のための諸制度・システム、ファカルティポートフォリオ等をより一層充実させ、教育の質を高めるために必要な情報の共有化を図る。</p>	<p>【医療情報学科】 2-1-1 学年進行に伴って、採用すべき教員については、現在の年齢構成を崩すことのないように適正配置を心がけ、求める教育・研究分野に適する人材を審査する。</p> <p>【情報メディア学科】 2-1-1 年齢構成を考慮した教員の採用を行い年齢構成の適正化を図る。</p> <p>【医療情報学科】 2-2-1 昨年度作成した実用的カリキュラム案を、学年進行に沿って実施する。</p> <p>3-1-1 CANVASを利用した授業改善の活動を引き続き実施する。必要に応じて、システムの改善を行う。</p> <p>3-1-2 CANVASの利用を促進するための方策を検討する。</p> <p>3-2-1 iPad導入時の授業評価アンケートについて事前検討を行う。</p> <p>3-2-2 ピアレビューを実施し、ピアレビューのあり方について検討する。</p> <p>3-2-3 iPadをシステム情報学科の学生に貸し出し、講義内外でiPadを利用し、iPadによる主体的な学習を促すことを試みる。</p> <p>3-2-4 カリキュラムアドバイザーボード会議を開催する。</p> <p>3-2-5 「学生FDとの連絡会議」を定期的で開催し、授業改善に向けた共同検討作業を実施する。</p> <p>3-2-6 私情協や大学ICT推進協議会等に参加し、情報収集を行い、本学のICT活用に利用していく。</p> <p>3-2-7 新任教員研修会、教育方法に関する研修会、国際FDエキスパートフォーラム等の研修内容を検討し、実施する。</p> <p>3-2-8 研修会参加を促進するためのインセンティブを検討する。</p> <p>3-2-9 FDウェブサイトからCANVASからアクセスできるようにして活用の促進を図る。</p>
<p>4 個々の学生のラーニングアウトカムや活動を総合的に把握し、学生の意欲向上につながる学習環境を構築する。</p>	<p>4-1 「教える」から「学ぶ」教育方法の調査・研究を進めながら段階的に学習環境の整備を図る。</p> <p>4-2 学生を大切に育てる環境として、ICTを活用しながら教職員と学生(学習チュータ等)が協同する仕組みを検討し、試行する。</p> <p>4-3 GPAの積極的活用とGPA導入に伴う諸制度及びシステムの充実を図る。</p>	<p>4-1-1 教育アドバイザーの試行状況に関するアンケートを実施し、制度としてのあり方を検討する。</p> <p>4-2-1 「主体的な学びへ導くためのICT環境構築モデル」を経営情報学部システム情報学科1年生を対象に試行、評価する。</p> <p>4-3-1 引き続きデータ分析を継続し、データを適宜開示していく。また、学生用のPOLITE上での情報公開との折り合いを模索し、有効な情報提供を検討する。評価の格差について、継続して検討する。</p> <p>4-3-2 学生のインセンティブを上げるGPA活用について、検討するとともに広く意見を募ることを検討する。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画
<p>◎大学院 大学教育や職業経験者から大学院教育への円滑な接続を図り、大学院の教育目標を達成するために、学習の継続性を確保する。</p>	<p>4-4 個々の学生のコンピテンシーの達成状況を可視化し、学習意欲の向上を図る。</p> <p>大学院教育と学士課程教育の連携体制を整備し、大学院教育に対する職業経験者の多様な期待に対応する。</p>	<p>4-4-1 科目の単位取得との関連以外のコンピテンシーの達成度(ループリックなどを参考に)の提示方法等について検討する。</p> <p>大学院の科目と学士教育科目の関連付けなどの検討を引き続き行う。</p>
<p><b>(6) 学生の支援に関する目標</b></p> <p>◎学士課程</p> <p>1 学生の学習実態を把握し、学内関係組織等と連携して多様な学力の学生に対する授業内外での適切な学習支援を行うとともに、主体的・自立的な学習習慣を涵養する。</p> <p>◎学生生活への支援</p> <p>1 学生サービス、厚生補導等の支援体制の整備充実、学生支援組織の適切な運営に努め、学生生活環境を整備充実する。</p> <p>◎留年・退学者対策</p> <p>社会の高度化、複雑化を背景とした学生の多様化に対応して、留年生、中途退学者を減少させる。</p> <p>◎卒業後の進路、就職支援</p> <p>1 学生の職業意識を高めるとともに、資格取得支援教育を拡充するなど、学生の就職活動を多面的に支援する。就職支援に関する体制、指導内容等について必要な見直しを行い、学生の意識・意見等も踏まえながら就職支援と進路指導の適切な実施に努め、就職委員会と学部、学科、関係委員会、各教員等との連携による就職指導体制の充実を図る。</p>	<p>1-1 保護者、学習支援センター、図書館、共通教育協議会、各学科及び教務委員会、クラス担任等との連携を図り、授業内外での学習が円滑に行えるよう支援を行う。</p> <p>1-2 自習室やグループ学習室でのピアサポートを通じて、授業内容を発展させるために学習支援し、主体的・自立的な発展学習を促す。</p> <p>1-1 学生の意見等を踏まえながら継続的に学生のニーズを反映したサービスの充実を図る。</p> <p>1-2 学生満足度調査を定期的に実施しその結果を公表する。</p> <p>1-3 食堂、売店、学生宿舎等の福利厚生施設を再点検する。</p> <p>eアシーナなどの出欠情報を活用し退学学生の早期発見と組織的対応のマニュアル化を検討し、教務委員会、学生委員会、共通教育教員、専門教育教員、保護者等と連携して指導し、学力不振学生に対し学習指導・生活指導を行い、その後の対応等も含めて検討する。</p> <p>1-1 各学科、学生サポートセンターを始めとする関係部署との連携、情報共有を図ることにより教員の就職に対する意識の向上を図る。</p> <p>1-2 就職相談・助言等の就職指導体制を整備し、就職説明会の開催、就職情報の提供、就職活動への動機づけ等、多様な就職支援策を検討する。</p>	<p>1-1-1 英語、数学、国語に関する基礎学力が不足している学生に対して基礎教育の経験者等による学習支援を継続して実施する。</p> <p>1-1-2 学生の退学対策とも連携しつつ、学生の保護者との懇談会の実施方法等について、新たに設置された「保護者との懇談会の在り方検討ワーキンググループ」で検討する。</p> <p>【医療情報学科】</p> <p>1-2-1 新設学科においても毎年実施の資格対策を見直し、より効率的かつ確実性の高い対策講座を実施するための検討を行う。</p> <p>【学習支援センター運営委員会】</p> <p>1-2-1 学内外のコンテスト、資格取得、ピアサポートルーム、チュータ活動等の充実について引き続き検討する。</p> <p>1-1-1 学生満足度調査結果その他学生の意見等を踏まえながら学生サービスの充実について引き続き検討する。</p> <p>1-2-1 平成23年度に実施した学生満足度調査を踏まえ、次の調査実施時期等について検討する。</p> <p>1-3-1 学生満足度調査結果その他学生の意見等も踏まえながら福利厚生施設等の整備充実について引き続き検討する。</p> <p>「主体的な学びへ導くためのICT環境構築モデルの開発」の取組の中で具体的に検討し、実施する。</p> <p>【学生委員会】</p> <p>全学教務・FD委員会の具体化の検討を受けて、学生委員会に関わる必要な対応等を検討する。</p> <p>1-1-1 各学科教員等との連携による就職指導の在り方について検討するとともに、指導の内容、指導方法等の充実について、引き続き就職委員会において検討する。</p> <p>1-2-1 就職相談・助言等の指導体制を充実し、教職員や外部組織とも連携した就職指導の強化について引き続き検討する。</p> <p>1-2-2 就職環境・内定状況に応じた支援プログラム等を機動的に企画実行し就職率の向上に努める。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画
<p>◎健康増進 1 学生の健康の保持、学生相談等に関する体制整備を図るとともに、保健センター及び学生相談室の業務の充実に努める。また保健センター及び学生相談室における健康、悩み、その他学生のあらゆる生活上の問題に関し効果的な支援を行う。</p> <p>◎課外活動、自主的活動への支援 課外活動、その他の厚生事業等を適正に運営するとともに学生の自主的活動等を支援する。</p> <p>◎経済的支援 経済的に困難な学生を支援し、経済困難から退学や除籍になる学生への支援対策を推進する。</p> <p>◎留学生 1 留学生の受け入れ体制から教育支援まで全学的なサポート体制をつくり、学内外での異文化交流を充実させる。</p> <p>◎大学院 1 生活支援・就職活動等の支援の充実、キャンパス生活向上のため、柔軟かつ適切に対処する。</p>	<p>1-3 各種資格の取得にむけ資格試験対策講座を実施するなどし、合格率を向上させるよう努める。</p> <p>1-4 新規インターンシップ受入企業の開拓について検討する。</p> <p>1-1 保健センター及び学生相談室の運営体制等の見直しを行い、各種の問題に対し学内外の関係組織等との連携を図りつつ、遅滞なく適切に対処するための体制を整備する。</p> <p>学生の課外活動、奨学金、その他の厚生事業等の適正運営について検討する。</p> <p>経済的困難による退学や除籍になる学生への支援対策を検討する。</p> <p>1-1 住環境整備、関連職員・カウンセラー等の充足、経済支援制度の強化、就職支援の充実等、留学生の支援制度を拡充する。</p> <p>1-2 留学生の日本語力や授業受講能力向上を図るとともに、授業における留学生補助なども検討する。</p> <p>1-1 院生の健康・メンタルヘルス相談制度、経済支援に関する方策を点検するとともに、院生の就職活動への相談体制を充実させるため企業が求める人材の調査研究を推進する。</p>	<p>1-3-1 各種資格対策講座を実施し、資格取得者の増に努める。</p> <p>1-4-1 インターンシップ受入企業の開拓について、昨年度の実績を踏まえて、さらに受入企業の拡大に努める。</p> <p>1-1-1 保健センター、学生相談室の連絡会議を定期的開催し運営の円滑化を図る。</p> <p>1-1-2 健康診断の実施、保健指導・学生相談等の充実実施に努め、更なる業務の充実について検討する。</p> <p>学生の課外活動その他の厚生事業等について、学生の意見・要望等を踏まえ、引き続き自主的な課外活動の支援方策等について検討する。</p> <p>経済的理由により退学や除籍になる学生への支援対策について、全学教務・FD委員会での検討結果等を踏まえ、奨学金その他の支援方策等について検討する。</p> <p>1-1-1 留学生の受け入れ体制から教育支援までの全学的なサポート体制の強化を継続する。</p> <p>1-1-2 新入学留学生の日常生活相談窓口担当を、国際交流留学生支援事務室に配置する。</p> <p>1-2-1 新入学の留学生を対象とした受け入れ直後の新学期前の期間において日本語特別講座を実施する。</p> <p>1-2-2 在籍している外国人留学生を対象に日本語能力試験2級の受験対策講座を実施する。</p> <p>1-2-3 授業における補助は学習支援センターと協力して、留学生チュータを検討する。</p> <p>1-2-4 留学生の日本語力向上を目的として日本語弁論大会を実施する。</p> <p>1-2-5 留学生の日本語力向上や異文化交流を目的として地元、地域も含め学内外でのさまざまな行事に積極的に参加させる。学内の行事として「本学学生と留学生との日中文化交流会」を実施</p> <p>1-1-1 大学院生の就職活動支援の現状の問題を引き続き整理する。</p> <p>1-1-2 健康面等における支援の現状の問題点を引き続き整理する。</p>
<p>(7) 教育環境に関する目標</p>		

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画
<p>1 教育施設・設備を拡充するとともにそれらを効率的に運用し教育環境の向上を図る。</p> <p>2 本学の学部・学科の特色を生かした教育環境を整備する。</p>	<p>1-1 施設・設備の優先順位を明らかにするキャンパス・マスタープランを作成し、教室の大きさや音響、レイアウト、また講義で使用するソフトや機器の数・配置等が講義の性格、及び受講生の数と適切であるかを検討する。学部・学科別の校舎・フロアへの再編を行い、空調設備の整備、図書館の充実を図り、24時間利用可能なキャンパスを目指す。</p> <p>2-1 ゼミナールを本学の専門教育の中核と位置付け、各種イベント等の顕彰制度の充実を図る。</p> <p>2-2 医療情報センター、バイオ実験施設など各専門研究教育設備の拡充を図る。</p> <p>2-3 メディアクリエイティブセンター(MCC)を中心にゼミナール、プロジェクト学習での利用に相応しい施設・設備の整備を定期的実施する。</p>	<p>1-1-1 空調関係は、第Ⅱ期保全計画(平成26年度～平成30年度)検討前に、学内要望等の取りまとめを行う。</p> <p>【先端経営学科】 2-1-1 平成24年度に構築した1年生前期から卒業までの少人数教育体制を運用していく。</p> <p>【先端経営学科】 2-1-2 平成24年度に構築した主要必修科目の完全セメスター制度を運用していく。</p> <p>【eラーニング推進センター】 2-2-1 POLITE及びCANVASのスムーズな運用のための運用システムの拡充と機能改善のためのシステムの改善を図る。</p> <p>【eラーニング推進センター】 2-2-2 「主体的な学びへ導くためのICT環境構築モデル」のシステム開発および改善を図る。</p> <p>【医療情報センター】 2-2-1 医療情報センターは、各種実習やAOセミナー、さらに高校生への実務体験施設として利用しているが、併用の健康情報科学研究センターとしての用務や分析・解析研究が態勢を占めつつあり、バーチャルホスピタルの移設の必要性を検討中である。</p> <p>【バイオ情報解析室】 2-2-1 機器設置やスペースの拡充に関する課題について、情報集積のためのサーバの設置、バイオ・医療情報解析機器・ソフトの導入、実験スペースの拡充の3点を達成目標にし、競争的資金を獲得し、本施設の改善・拡充を図る。また、医療情報学部の新設に伴い、それに伴う健康情報コースの教育施設としての利用も図る。</p> <p>【会計課】 2-2-1 各センターの設備要望確認後、各センターからのリース案件に対して関連部署と調整の上、最適のリース期間等を検討する。</p> <p>【メディアクリエイティブセンター】 2-3-1 環境改善のため、ノートPCを6台拡充する。</p> <p>【メディアクリエイティブセンター】 2-3-2 MCCの実績をまとめたPDFでのパンフレットを作成する。</p> <p>【メディアクリエイティブセンター】 2-3-3 MCCの機材貸出管理システムを運用開始する。</p> <p>【会計課】 2-3-1 各センターの設備要望確認後、各センターからのリース案件に対して関連部署と調整の上、最適のリース期間等を検討する。</p>



中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画
3 情報センターの機能を充実させる。	3-1 講義で学生全員がモバイル端末を利用できる環境を整備する。	3-1-1 システム情報学科で試行するiPadによる講義において問題点や課題を探り、解決策等を検討する。
4 大学院の特色を生かした教育環境を整備する。	3-2 仮想サーバ・クラウド等の技術が利用可能かの検討を行い、資源の有効活用を図る。	3-2-1 引き続き、クラウド化を検討する。
5 カリキュラム、シラバスと密接に連動し、学生の利用動向を把握し、学生、教職員のニーズに応えた図書館サービスを提供する。	4-1 大学院における教育環境のさらなる向上を検討する。	4-1-1 必要があれば、教育環境の向上を検討する。
	5-1 学生の利用動向を把握し学生のニーズを反映した図書を整備するとともに、学生、教職員への文献サービスの体系的な整備充実を図る。	5-1-1 平成24年に行った学生利用アンケート結果に基づき、学生のニーズを反映した図書館の整備充実策を策定する。また、教員のアンケート調査を実施し、その結果を基に整備充実策を検討する。
<b>II 教育に関する目標</b>		
<b>II-2 通信教育部の教育に関する目標</b>		
<b>(1) 教育研究組織に関する目標</b>		
1 大学通信教育の動向や社会的ニーズを把握して、ICTを活用した教育サービスを行う。	1-1 通信教育のニーズや通学と通信教育の設置基準の統合に関する中教審の動向を調査する。	1-1-1 社会的ニーズや文科省の大学通信教育政策の動向に注意を払い、引き続き、教育サービスのICT化に取り組む。
	1-2 専門職業教育や生涯教育科目の充実を図る。	1-2-1 専門職業教育や生涯教育科目について検討を始める。
2 通信教育システムの改善と高度化に努め、情報に関わる通信教育の拠点機能を実現する。	2-1 eラーニング科目の拡充を図るとともに、ICTの利活用を進め、通信インフラを整備する。	2-1-1 通信教育の拠点機能の充実に努める。
<b>(2) 教育の成果に関する目標</b>		
1 教育成果の評価を行う体制を作る。	1-1 通信教育の特性を加味した評価方式を作る。	1-1-1 昨年度のGPAによる成績評価を分析して、教育の改善に努める。
2 多様な社会人履修者の学習意欲を高めるような教育体制を整える。	2-1 学習目的や成果を明確にして、達成度を客観的に評価できる方法を検討する。	2-1-1 (3)教育の内容・方法等に関する目標と関連付けて検討する。
<b>(3) 教育の内容・方法等に関する目標</b>		
1 ICTの進展に応じて授業形態を見直し、IPメディア授業やインターネットメディア授業の教育効果を高める。	1-1 社会的ニーズや今後の成長が見込まれる分野を検討し、履修モデルコースの見直しを行う。	1-1-1 学科名称や履修モデルコースの見直しについて検討を始める。
2 教育手段としてICTの積極的な活用を図る。	2-1 ICTの利活用について総合的に検討し、実施計画を作る。	1-1-2 引き続き、社会的ニーズや今後の成長が見込まれる分野を検討する。
3 教育サービスの向上に努める。	3-1 インターネットによるQ&Aを授業全体に拡充する。	2-1-1 昨年度改修した4科目のメディア授業及び新しい方式の「卒業論文」を実施する。
		3-1-1 レポート提出のICT化について検討する。
<b>(4) 学生の受入れに関する目標</b>		
正科生Aや科目等履修生の増加対策を検討し、通信教育受講生を拡大する。	通信教育のニーズを踏まえ、社会人及び生涯学習を目指す人々に受け入れやすい制度やプログラムを企画する。	入学者の動向を注視して、必要に応じて見直しを図る。
<b>(5) 教育の実施体制に関する目標</b>		
1 教育センターや通学との連携を図り、通信教育を円滑に実施する体制をつくる。	1-1 通信教育担当教員の任用規程や通信教育に関わる諸規程を整備する。	1-1-1 教育センターとの教育責任者協議会を11月に開催する。
2 社会人を含む多様な学生に対する学習支援体制をつくる。	2-1 社会人を含む多様な学生に対する学習支援方法や支援体制を検討する。	2-1-1 引き続き、他大学の調査結果及び「通信教育の拠点機能」の内容と関連付けて検討する。

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画
3 教育設備等の充実を図り、全学的な通信教育の支援体制をつくる。	3-1 通信教育担当の人員や教育設備等の充実計画を作成する。	3-1-1 教育方法のICT化に伴う設備の増強について検討する。
<b>(6) 学生の支援に関する目標</b>		
1 正科生Aや科目等履修生に対する学習支援体制と相談窓口を整える。	1-1 ホームページに相談窓口を設けて、相談体制を整備する。	1-1-1 引き続き、他大学の調査や「通信教育の拠点機能」の内容と関連付けて検討する。
2 学生の利便性を考慮して、各種制度を整備する。	2-1 奨学金制度の拡充を図る。	2-1-1 ATMによる学費等の納付を実現する。
<b>(7) 教育環境に関する目標</b>		
教育環境改善のための調査を行い、通信教育の改善に役立てる。	通信教育の内容を加味した学生満足度調査項目を作成し、調査を実施する。	学生満足度調査の項目や調査方法について検討する。
<b>Ⅲ 研究及び社会連携に関する目標</b>		
<b>(1) 研究及び社会連携に関する目標</b>		
1 教員の研究活動の活性化のために支援体制を整え、研究水準の向上を図る。	1-1 研究活動を適正に評価し、その結果を研究活動の質の向上に結びつける体制を確立する。 1-2 積極的に各種学会、講演会を招致する。 1-3 国内外への中長期研修制度(サバティカル)の導入を図り、国際会議参加への旅費等の支援体制を整える。 1-4 科研費に関する講習会等を実施し、科研費への申請を促す。 1-5 大学院の研究活動を推進するため、研究環境を整備する。 1-6 国内外の大学や研究所から講師や研究者の招聘に務める。	1-1-1 定着化しつつある新しい評価システムの確立を図る。また、有望な萌芽的研究の在りかたについて検討を継続する。 1-3-1 「国内外への中長期研修制度(サバティカル)」及び「3学期制(ないしはクォーター制)」の導入可能性について検討する。 1-4-1 本年度も、勉強会を開催する。
2 研究の学内環境の整備・改善を図る。	2-1 電子ジャーナル及び学術情報データベースの整備・充実と、ネットワークを介した各種図書館サービスの充実を図る。	2-1-1 学術情報データベースについて全般的には現在のまま、運用していく事とするが、平成24年度に1年間試験運用した「北海道新聞データベース」の利用実績等を分析し、分析結果に基づき継続についての検討を行う。また、各種データベースの使用の簡便化を図るためホームページの一部、レイアウトの見直しを行う。
<b>(2) 地域貢献・産学連携に関する目標</b>		
1 教育研究成果を広く社会に還元し、企業・地域社会などと幅広く連携する取り組みを拡大する。	1-1 各種公開講座、研究会を開催するとともに、企業・行政との連携を強め、教育・研究の成果を社会に広く還元する。	1-1-1 公開講座、外部機関との連携講座を実施する。
2 ICTを通じた産学連携研究を推進し、地域の要請に応じる。	2-1 地域社会との連携及び産学連携活動として展開する研究活動等の支援体制・評価体制を整備・実施することに努める。	2-1-1 地域貢献・産学連携を担務する組織の整備を継続して進める。
3 図書館サービスを学外に開放し地域住民への生涯学習活動支援に努める。	3-1 地域情報資料コーナーの充実や近隣公共図書館との交流を促進し、学外利用者の利用を促進する。	3-1-1 平成24年度に引き続き、地域情報コーナーの資料の充実を実施し、近隣図書館への広報を推進する。また、学外利用者の利用促進に向けて、図書館見学会を年2回実施する。
<b>(3) 国際交流に関する目標</b>		
1 学生及び教員による国際交流を推進し、充実させる。	1-1 これまで行ってきた海外での語学研修の充実と、日本の文化等に関心のある外国人留学生の受け入れにより、学生の異文化への	1-1-1 海外事情(米国編・中国編)による語学研修を引き続き実施する。

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画
<p>2 世界に本学の教育研究の特徴を知らしめるように英語等での情報発信を充実させる。</p>	<p>関心を高めることを図る。</p> <p>1-2 単位互換等による交換留学制度を整備し、学生の国際交流の育成を図る。</p> <p>1-3 外国人留学生の日本語能力の向上を支援する体制の充実を図る。</p> <p>2-1 インターネットを活用し、特色あるカリキュラムや教育システムを海外に知らしめるように英語等によるコンテンツの企画、作成を図る。</p>	<p>1-1-2 タイ国ラジャマンガラ大学(RMUTT)等日本の文化に関心のある外国人留学生の受け入れについて検討する。</p> <p>1-1-3 タイ国ラジャマンガラ工科大学(RMUTT)と交流を推進するために「Webデザインワークショップ」に加えて、「ショートフィルム」、「プログラミング(含むゲーム)」、「ETロボコン」等の実施について検討する。</p> <p>1-1-4 米国LWIT、中国南京大学への語学研修授業「海外事情」、タイ国RMUTTとの「Webデザインコンテストによる技術・文化の相互啓発」を目的とした交流の活動報告を小冊子「国際交流レポート」にまとめ製本し発行する。また、それらの内容の一部をデジタル化し公開する。</p> <p>1-2-1 単位互換等による交換留学制度について検討する。</p> <p>1-3-1 新入学の留学生を対象とした受け入れ直後の新学期前の期間において日本語特別講座を実施する。</p> <p>1-3-2 在籍している外国人留学生を対象に日本語能力試験2級の受験対策講座を実施する。</p> <p>2-1-1 平成25年度版(2013年度版)の大学案内の中から特色あるカリキュラム「宇宙情報システムコース」や「観光情報システムコース」などを海外に知らしめるように英語等によるコンテンツの企画、作成を図る。</p>
<b>IV 管理運営に関する目標</b>		
<p><b>(1) 管理運営体制の改善に関する目標</b></p> <p>1 建学の理念に基づき、大学の進むべき方向を戦略的にまとめ、全学的視野に立った機動的な大学運営の遂行に努める。</p> <p>2 情報の一元管理を行う。</p>	<p>1-1 情報を核とした4つの機能を果たすために、理事会、評議員会、教育研究評議会、教授会などが協調し、教育・研究・社会貢献に関する基本戦略を定める。</p> <p>1-2 最適な資源配分と機動的な運営体制の確立を図る。</p> <p>2-1 教育関連のシステム、ポータルサイト、学生管理システムなどのシステム統合を図り、情報の一元化を行う。</p>	<p>1-1-1 基本戦略を策定する組織を決定し、必要な機能・人的配置・規程等について整備する。</p> <p>1-2-1 最適な資源配分と機動的な運営体制について、あらためて具体的な内容について洗い出しを行う。</p> <p>2-1-1 学園総合情報システム(campus)のリプレースの検討を行うので、他のシステムについても統合可能なものについては情報の一元化を図る。</p>
<p><b>(2) 組織倫理・危機管理に関する目標</b></p> <p>1 社会的な公器とされる大学により一層の社会的ルールの遵守が求められるなかで、組織倫理の確立とコンプライアンスを推進し、全学的な安全管理体制を構築する。</p> <p>2 セキュリティポリシーの実質化を行う。</p>	<p>1-1 目標を達成するための啓蒙活動により教職員のモラル向上への活動を進める。</p> <p>1-2 危機管理マニュアルを整備し、組織倫理の確立と危機管理能力を向上させる。</p> <p>2-1 セキュリティポリシーにのっとり、各部門の責任者を明確にし、セキュリティの維持を図る。</p>	<p>1-1-1 目標を達成するための教職員の啓蒙活動について、モラル向上のための具体的活動を推進する。</p> <p>1-2-1 危機管理マニュアルに記載する項目について内容の調査を行い素案をまとめる。</p> <p>1-2-2 作成した消防計画について、必要があれば見直しを行う。</p> <p>2-1-1 現在設定されている本学のセキュリティポリシーについて改善項目の洗い出しを行い、時代に即したセキュリティポリシー制定の準備を行う。</p>
<p><b>(3) 教育研究組織の見直しに関する目標</b></p> <p>1 人材育成に関する社会のニーズを的確に反映し、高度な職業人養成を中心とした実践的な教育研究を行う。</p>	<p>1-1 時代に即した改組・改編の提言を行うための柔軟な組織作りを検討する。</p>	<p>1-1-1 平成25年度から実施する改組改編について検証の為の準備を行う。</p>

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画
2 通信教育における教育研究拠点として相応しい研究教育活動を支援する体制の拡充及び活性化に努める。	1-2 カリキュラム及びキャリア教育について定期的に見直す。  2-1 通信教育を一つの生涯教育として位置づけるための教育体制作りを行う。	1-2-1 カリキュラムアドバイザーボード会議を9月に実施する予定である。  1-2-2 カリキュラムアドバイザーボード会議で評価を受けることを検討する。  2-1-1 本学の通信教育の特徴である全国の教育センターについて、その機能と役割を明確にするための準備活動に取り組む。
<b>(4) 教職員人事と適正配置に関する目標</b> 1 大学としての社会的使命を果たすために、教員情報の開示とともに、教職員の能力が最大限に発揮できるような適正かつ弾力的な人事管理に努める。	1-1 教育研究機能や学生支援機能を充実させるため、教職員の適正な人事考課、及び人事考課に基づく処遇を検討し、効果的な人事制度を確立する。  1-2 新任教員採用のときの担当科目、採用条件などを学科内で開示して議論する体制を作る。	1-1-1 教員の業績考課の方法について資料を収集し検討する。
<b>(5) 事務等の効率化・合理化に関する目標</b> 1 私立大学法人として適切な事務組織を確立し、効率化・合理化を積極的に進める。	1-1 限られた資源の有効活用及び効率的な事務の実行実現に向けて、業務全般の権限と責任の所在を明確にする。  1-2 事務処理の在り方、事務職員の適正な配置を行う。	1-1-1 適切な事務組織の確立には事務業務の内容について詳細に知る必要があり、業務内容を明確にするための事業計画について検討する。  1-2-1 上記1-1-1の事業計画と併せて事務改善について検討する。
<b>(6) 広報活動に関する目標</b> 大学における情報公開の義務化を受け、受験生中心の広報活動だけでなく、本学の教育研究の現状や成果について広く社会に広報する活動を強力に推し進める。	インターネットその他の媒体を効果的に利用して積極的な情報公開を行うために、教員組織、事務組織が一体となって情報公開を進めるためのシステム作りを行う。	大学広報を含めて、広報連絡協議会が主体的に活動している内容について支援すると共に検証出来るような内部体制を検討する。
<b>V 財務に関する目標</b>		
<b>(1) 資産の運用管理に関する目標</b> 大学が保有する資産の点検・評価を基礎に、資産の有効活用を図る。	資産の点検・評価を行う公正な組織を構築し、それぞれの特性に応じた効率的な運用を行うとともに、十分に活用されていない資産を洗い出し、それら資産の活用と運用の体制を作る。	知的財産を管理する体制を作り、整備する。
<b>(2) 外部研究資金その他自己収入の増加に関する目標</b> 大学財政の健全化のために欠かせない競争的研究資金、受託研究費等外部資金の一層の獲得を図るとともに、自己収入の増加に努める。	自律的な大学運営を行うために自己収入を増加させるために、外部資金導入に関する情報の収集と公開を進め、積極的な獲得活動を展開する。	引き続き外部資金導入に関する情報の収集と公開を進め、積極的な獲得活動を展開する。また、寄附金関連の整備について他の事例を検証し、本学への適応可否について検討する。
<b>(3) 経費の抑制に関する目標</b> 管理運営費の一層の抑制に努める。	効率的な大学運営の仕組みを構築しつつ無駄な経費の抑制を図る。	引き続き支出項目の見直しを実施し、経費の抑制を図る。
<b>(4) 施設設備の整備・活用に関する目標</b> キャンパス環境のより一層の整備・保全を行うとともに、設備の活用に努める。	計画的な維持管理を行うための組織的な仕組みを構築し、きれいで清潔な環境の整備とともに、安全性・信頼性を基本に、教育・研究体制の変化に対応する柔軟で計画的な施設整備を行う。	施設設備の保全・活用については、大学運営の全ての面に関わっているため、各部署からの要求を含めて、検討する場を設ける。
<b>VI 自己点検評価、外部評価及び情報提供</b>		
<b>(1) 評価の充実に関する目標</b>		

中期目標	目標を達成するための計画	平成25年度計画
<p>1 原則として5年毎に中期目標・中期計画を定め、毎年度これに基づく年度計画を定める。</p> <p>2 中期目標・中期計画及び年度計画に対する達成状況の自己点検評価を実施し、定期的に自己点検評価書の作成・公表を行う。</p> <p>3 自己点検評価書に基づき、本学独自の外部評価を実施し、評価結果を公表する。</p> <p>4 機関別認証評価は、7年以内に、継続的な自己点検評価と外部評価に基づいて受審する。</p>	<p>1-1 平成23年度から5年間の中期目標・中期計画に基づく学校運営及び教育研究を着実に進めるとともに、平成27年度に次期中期目標・中期計画を作成する。</p> <p>2-1 毎年度、中期目標・中期計画及び年度計画に対する達成状況の自己点検評価を実施する。</p> <p>2-2 原則として2年毎に、自己点検評価報告書を作成し、公表する。</p> <p>3-1 自己点検評価報告書に基づく外部評価を実施する。</p> <p>4-1 平成28年度に、機関別認証評価を受審する。</p>	<p>1-1-1 中期目標・中期計画に基づき着実に実行する。</p> <p>2-1-1 中期目標・中期計画及び平成25年度計画の達成状況を自己点検評価する。</p> <p>2-2-1 自己点検評価報告書を作成する。</p> <p>3-1-1 外部評価の在り方について検討し、決定する。</p>
<p><b>(2) 情報公開等の推進に関する目標</b></p>		
<p>1 開示が義務化された教育情報及びその他の教育情報について公表を推進する。</p> <p>2 財務情報・経営情報の公開を推進する。</p> <p>3 研究成果や地域連携関係の情報の公表を推進する。</p>	<p>1-1 教育情報の公表を着実に推進する。</p> <p>2-1 財務情報・経営情報の公開を着実に推進する。</p> <p>3-1 研究成果及び地域連携関係の情報を、積極的に公表する。</p>	<p>1-1-1 教育情報を積極的に公表することを継続しながら、ホームページや各種の刊行物の公開状況を見直し、検討する。</p> <p>1-1-2 ホームページ部会は、教員のプロフィールを学内外に、高校生でも解かる表現で紹介するページの整備作業を引続き行う。情報を広く収集し、ホームページからタイムリーに発信する仕組み作りを進める。</p> <p>1-1-3 出版部会は、ビジュアルアイデンティを導入する基準作りの作業を引続き行う。①ロゴマークの使用状況調査、②統一デザインの検討、③現状デザインの整備、④マニュアルの作成の手順で進めて行く。</p> <p>2-1-1 財務情報・経営情報を積極的に公表することを継続しながら、ホームページや各種の刊行物の公開状況を見直し、検討する。</p> <p>3-1-1 研究成果及び地域連携関係の情報を積極的に公表することを継続しながら、ホームページや各種の刊行物の公開状況を見直し、検討する。</p>